

令和6年度博士学生支援プログラムシンポジウム 開催報告

大学院教育支援機構 PhDリクルート室

開催日：2025年3月17日（月） 13:45~17:45

開催場所：新潟大学中央図書館ライブラリーホール（一部オンライン）

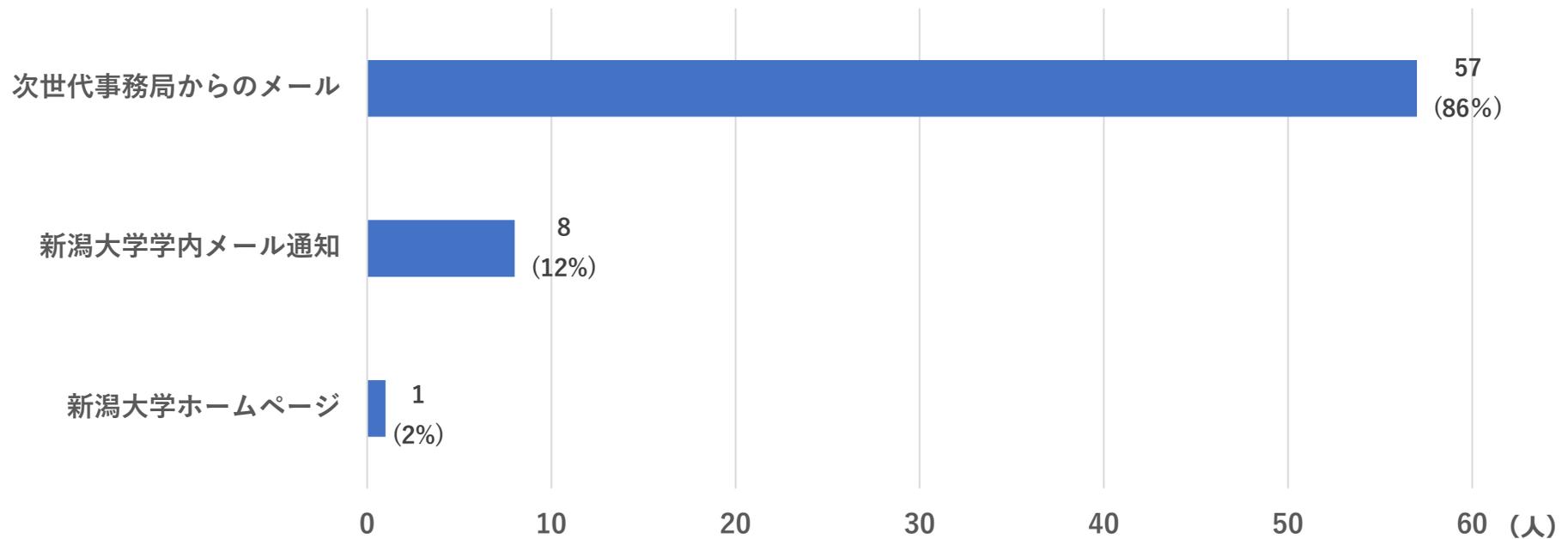
参加人数：135名	内訳：学生	95名
	教職員	28名
	産業界他	12名

参加方法：対面	111名
オンライン	24名

回答者数：66名（参加者135名）

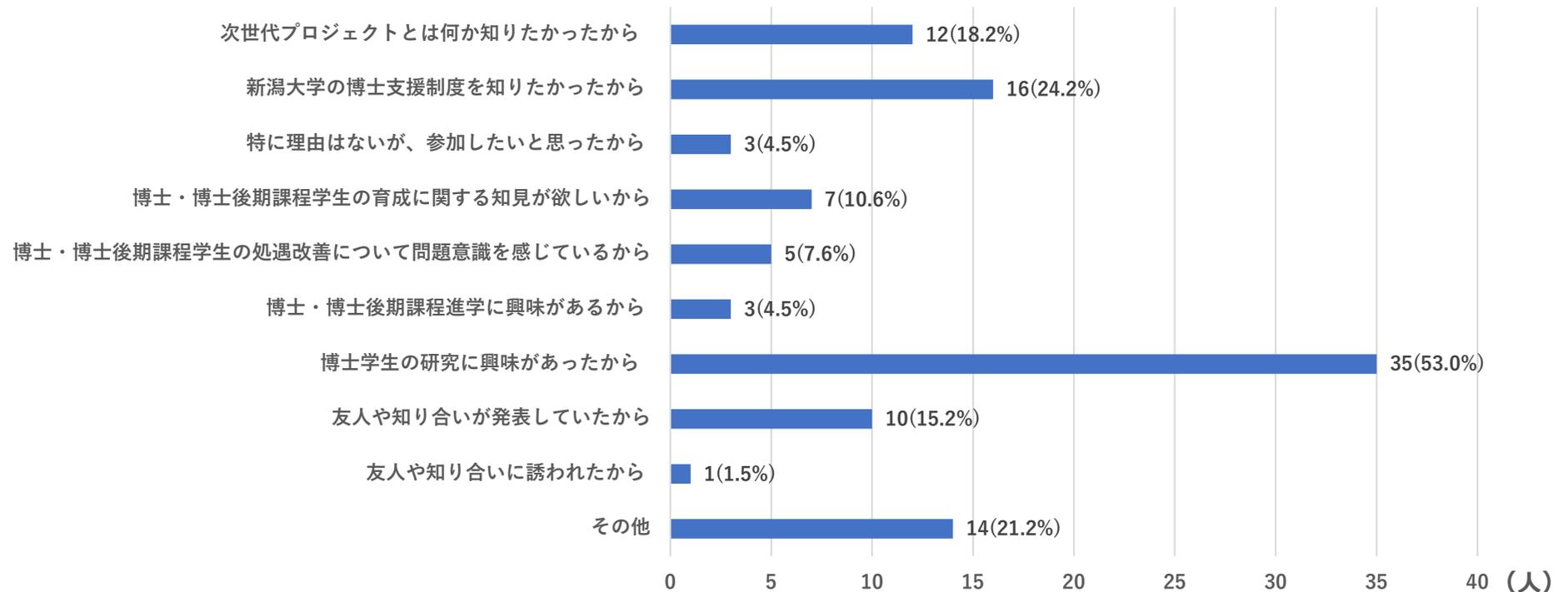
1. シンポジウムをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）

66件の回答



2. シンポジウムに参加された理由をお聞かせください。(複数回答可)

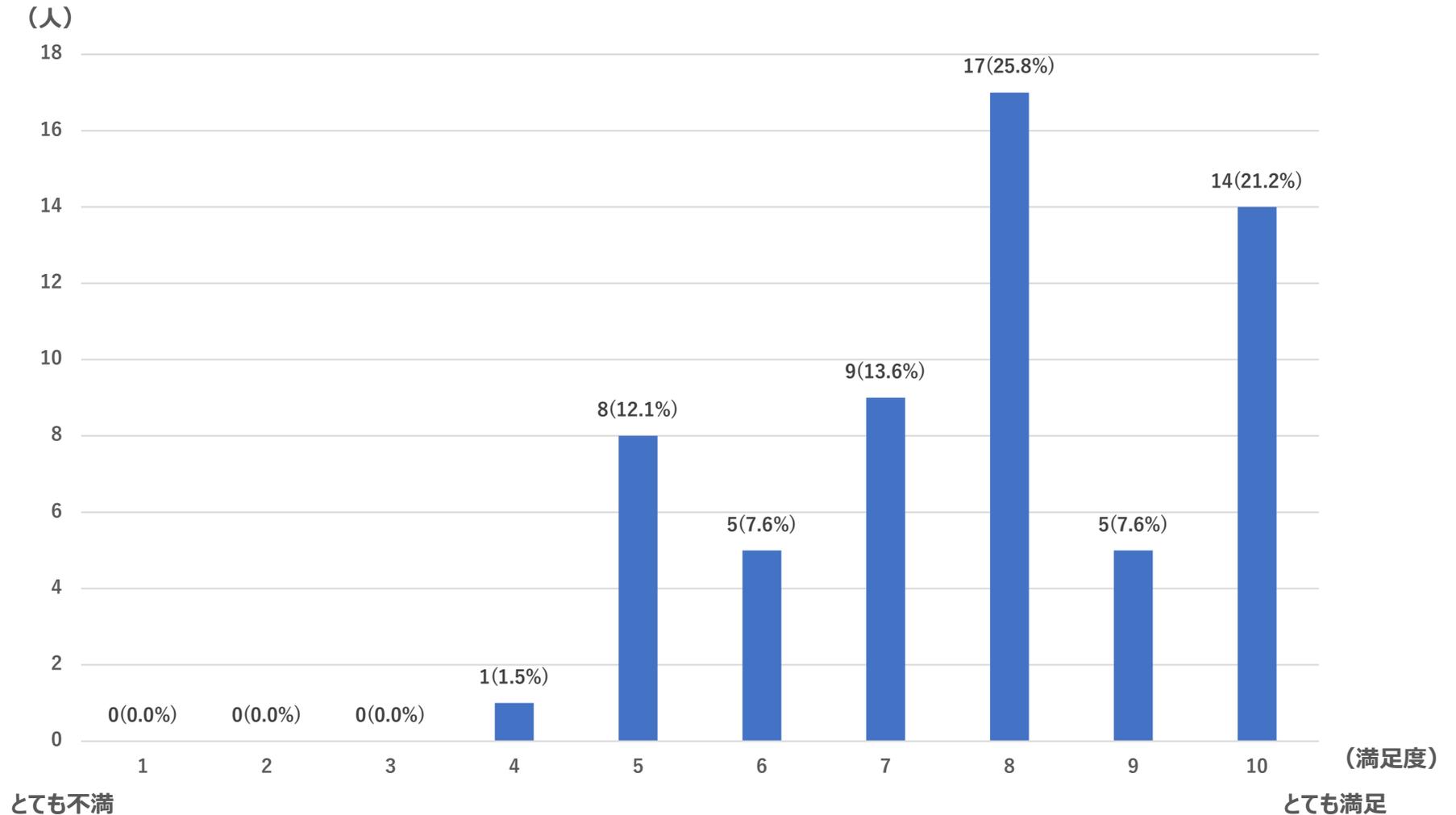
66件の回答



「その他」 次世代生の必修参加だったので(6人)
 I shared my research as I am a next generation support recipient
 キャリアセミナーに出席したため
 これまでの次世代生について知りたかったから
 当該プログラムに参画、フォローをさせてもらっているから
 発表するため
 キャリアセミナーに出席したため
 用事のため欠席 (3人)

3. シンポジウムの満足度を教えてください。(複数回答可)

66件の回答



3で答えた理由をお聞かせください。(一部抜粋)

10	The interest from the audience in my research was intriguing and seeing and hearing what other students are doing in their was also inspiring and interesting factor for multilab options
10	新潟大学の取組が理解できました。また、学生の分野を横断したコミュニケートがうまく図られているなと思いました。大変参考になりました。ありがとうございました。
10	新潟大学の博士課程の皆さんが持つ問題意識の高さを知る機会が得られたこと。
10	とても充実していました。学生、教員、産業界の博士人材に対する期待を感じることができるイベントだったと思います。
9	This is well-organised with English translation.
9	ポスター発表における議論は大変有意義な時間となりました。しかしながらシンポジウム終了後の交流時間が少し短く感じました。普段イベントなどにあまり参加していない学生も多く参加していたためもう少し交流の時間が欲しいと感じましたし、ポスター発表の時間中にまわりきれなかった学生のポスターを見る時間も欲しいと思いました。
8	様々な博士学生と関われた
8	シンポジウムの内容が充実しており、講演やパネルディスカッションが大変興味深かったです。多様な分野の研究者と交流できる機会もあり、非常に有意義な時間を過ごせました。博士人材の可能性について新たな視点を得ることができ、今後の研究やキャリアに役立つ貴重な経験となりました。
8	ポスター発表やパネルディスカッションを通し、多くの次世代生の活躍や考えを学ぶことができました。また、それに対する学長からのコメントも印象に残りました。
8	事前に図書館に足を運ばない場合、全てのポスターをじっくり見るのが難しい量と時間である。
8	次世代生という立場ですが、パネルディスカッションが何を目的としているか、どのように今後参考にすればよいかわかりませんでした。また、ディスカッションというより4人の意見をあげていくだけのように感じ、時間も長いと思いました。
8	もう少し、学生の研究発表について聞きたかったです。

8	It was quite interactive and interesting as well. I was able to demonstrate my research in front of people.
8	パネルディスカッションで会場の参加者とのインタラクティブなやり取りがあればさらによかった。
8	パネルディスカッションにて同じ次世代生の次世代プログラムへの意見や感想、自身の経験談や思い描く将来像などを聞いたため。
7	登壇された方の生の声が聞いたことがよかった
7	オンライン参加者にも分かりやすかったから(特にパネルディスカッション)。
7	自身の研究の進行状況の確認や、他の博士学生の研究内容や進捗状況を知ることができた点が良かったと考えます。
7	企業の方や指導教員の先生方のお話、また支援学生同士のディスカッションは、普段あまり触れる機会のない様々な視点が得られ大変勉強になりました。ただ、ポスター発表の時間が長く、後半時間を持て余してしまった参加者が多かったように感じます。
6	次世代プロジェクトの制度がそもそもわからない中で参加したので、パネルディスカッションの内容がよくわかりませんでした。ただ、次世代プロジェクトが博士学生の研究に役立っていることもわかりましたし、博士学生から運営に意見が言えるということがわかり、うまく機能しているのだと感じました。博士学生の皆さんを応援したいという気持ちになる会でした。
5	ポスターセッションが長かった。 パネルディスカッションが短かった。
5	ポスターの貼付場所によって聞きに来る人数に差があり不平等であった。見に行けていないポスターもあったという話を聞き、それで受賞者を決めるのは正当な評価法ではないと思う。
5	ポスター発表では、長所は院生の熱意が伝わってきました；短所は結果の細かい説明が多かったです。私事では、博士研究時、私は自分の研究が学問分野の何に貢献したいのかを考えていました。このようなことから、私はポスター発表が次のようなものであることを望んでいます：院生は結果・考察よりも、自分の研究が何に貢献したいのかを主張してみる（研究に取り組む哲学）。

4. その他、本事業へのご要望（博士人材へ期待すること、新規プログラムや企画の実施など）を教えてください。

博士学生が研究を社会実装につなげる機会を増やしてほしい 産業界や自治体との連携を強化し共同研究やインターンシップの場を提供してほしい スタートアップ支援や異分野交流の促進により博士人材の可能性を広げてほしい 研究発信力向上のためのプレゼン研修やアウトリーチ活動の機会を設けてほしい 海外研究機関との連携を強化し国際的な視野を持つ博士人材を育成してほしい 研究だけでなくマネジメントやリーダーシップスキルを学ぶプログラムを充実させてほしい

I would like to know if this program has a post doctoral support program fund?

大学院も改革が進んでいると伺いました。博士学生を支援するこのような事業が継続されることは、きっと励みになると思います。

これまでと同様、これからも優秀な人材育成に向けた活動を期待しています。

これからの社会を構築する、そういう思いを持った人材が一人でも多く育つことを期待しています。その活躍の場は産業界でもアカデミアでも構いませんが、課題意識を持ち、解決に向けて自分で動ける人材になってほしいと思います。現在のプログラムはそうした人材を育成する意図が明確だと思います。さらに言えば、もう少し学外の方との交流プログラムがあってもいいかもしれません。全員参加でなくてもいいと思います。その前に、学内での交流を増やすことを意識する方が大切かもしれません。

旭町キャンパス所属の博士課程学生の交流の場が少ないように感じている。院生会は交流の場となり得るが、都合上五十嵐キャンパスが活動の主軸になっているため、タイミングが合わず参加できないことが多いと感じている。オンラインでの参加等も方法の一つではあるが、対面で参加できるような企画が旭町キャンパス内でもあり、研究上の悩み等共有できるような場が増えるのではないかと考える。

もう少し、学生間で研究に関して意見や情報を交換できる機会が欲しいです。

キャンパスの違い、日中は働いてその後研究するといったところでの大学院生活の違いが、こんなに大きいのだなと感じ、このことを知ってもらえてない感じが少し悲しく思いました。しょうがないところもあるとは思ってはいるのですが、最後の牛木学長の言葉が、言いたいこと・感じていることを代弁してくださっていて、寄り添ってもらえたことで気持ちが楽になりました。

博士人材関係については産官学の連携が少しずつ強化されつつあるように感じます。そのなかで、貴大学としてどのような目的・特色を持った活動を一層強化されるのかが気になっております。

旭町キャンパスでの催しもあると良いかと思えます

この制度でお金をもらっている以上果たすべき義務があることを、特に歯学系の博士学生に十分に伝えてほしい。

オンラインで受講できる英語に関する講義（英語で簡単なディスカッション、会話、論文の書き方など）や、他分野の方に研究のアドバイスをいただく機会があれば嬉しいです。